

---

# 建物悉皆調査を通じた 地方創生に関する調査研究

---



徳島県南部総合県民局  
平成28年3月



## 1.調査目的

現在の海陽町は平成18年3月31日に海南町、海部町、穴喰町の3町が合併して誕生した町で、徳島県の最南端に位置し、南東の海岸線は太平洋を臨み、北は那賀郡、東は海部郡牟岐町に、西は高知県と隣接している。

北部・西部にあたる山地は 1,000メートルにおよぶ緑豊かな山々がそびえており、これらの山々を水源として、地域の中央には北から南に海部川が、南部では西から東に穴喰川が太平洋に流れ込んでいる。

海部川下流の右岸流域沿いに細長く開けた平野部は、海部川の沖積作用によって形成され、その広さは郡内一を誇っている。青く美しい海岸は室戸阿南海岸国定公園に指定され、海岸は数々の岬や入り江を有する美しいリアス式海岸となっている。

また、海岸線に沿って徳島市から高知県とを結ぶ国道55号とJR牟岐線・阿佐海岸鉄道がほぼ並行に走り、南北には海部川に沿って国道193号が国道55号と那賀郡中央部を結んでいる。

今回、調査対象となる鞆浦地区は、海部川の河口にあり、大敷網漁やイセエビ漁が盛んな漁師町であり、徳島南部の美波町から海陽町にかけて存在する港町独特の「ミセ造り(蔀帳造り)」が軒下に多く見られる。こうした漁村集落の景観を今に残している当地区も、近年の少子高齢化、人口減少及び建物の建替えにより、空き家の増加や歴史的な町並みが消えつつある現状である。

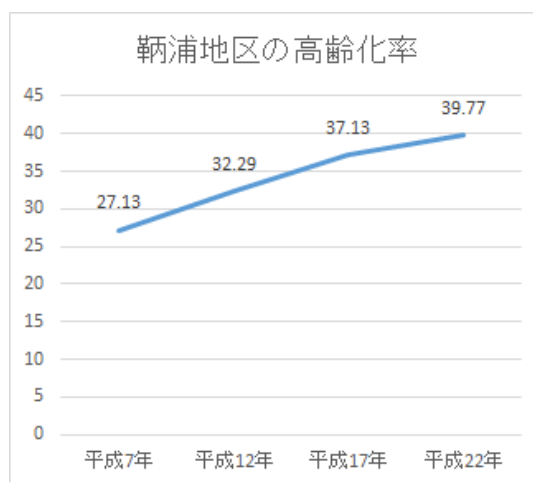
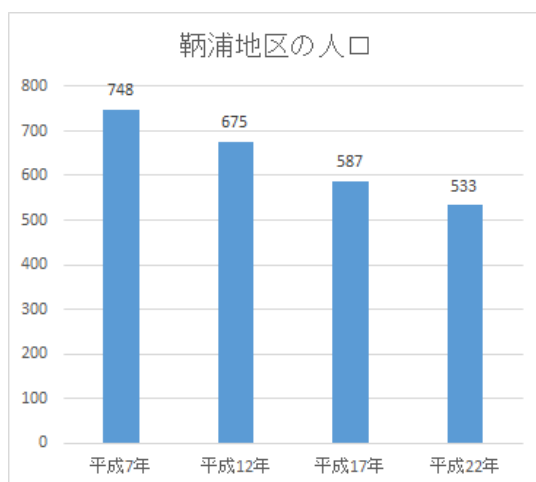
### ■鞆浦地区の人口等の状況



鞆浦地区の位置

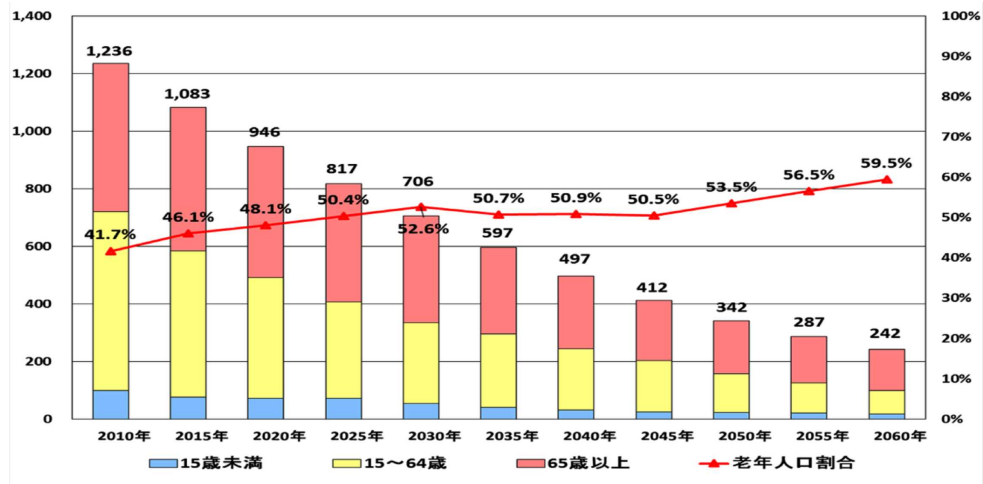
#### 鞆浦地区

国勢調査	人口(人)	高齢人口(人)	高齢化率(%)
平成7年	748	203	27.13
平成12年	675	218	32.29
平成17年	587	218	37.13
平成22年	533	212	39.77



■現状のまま推移した場合の人口予測(海陽町人口ビジョン・靱浦+奥浦地区)

人口 1,083人、高齢化率 46.1%【平成27年4月末時点】



人口安定化シナリオによる人口予測(靱浦+奥浦地区)

合計特殊出生率を現状より 40 %程度向上

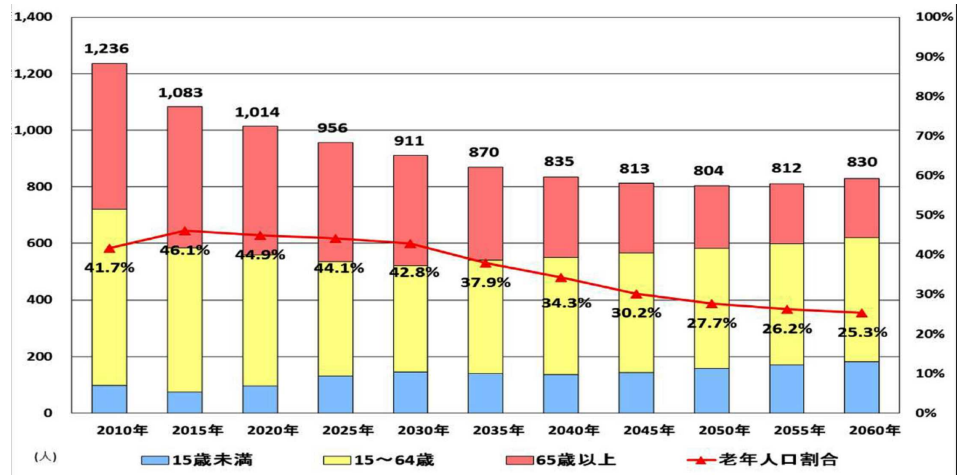
若年層(15～29歳)の流出を現状より 50%(半分)程度に抑制

毎年今以上に ① 1組の20歳代前半の夫婦世帯

② 1組の30歳代前半の夫婦と4歳以下の子ども1人の世帯

③ 1組の60歳代前半の夫婦世帯

合計3世帯、7人の定住が実現した場合



そこで、町並みの保存や空き家状況の把握さらに防災上の観点などを網羅し集落の再生を目的として、靱浦地区にある全建物を対象に海陽町と連携し調査を行うこととした。この調査により個別建物の歴史的意匠や建物の残存状況を把握するにとどまらず、地域のコミュニティーの存続を見据えた検討ができると考えられる。本調査により、こうした地域の保全や活用を議論するための基礎的な資料を整備する。

また、調査の実施機関については、平成26年度に南部総合県民局と美波町が

実施した「地域がキャンパス」推進事業により、美波町日和佐浦地区で同様の建物  
悉皆調査を実施した徳島大学総合科学部の塚本准教授のゼミに依頼した。今  
回の調査では、県民局と海陽町は専門的知見による研究や若い視点の導入及び  
若者と少子高齢化が進む地域との交流促進を望んでおり、徳島大学は、学術研  
究はもとより、地域連携や社会貢献さらに人材育成を見据えた取組を展開してい  
ることから両者の目的が合致している。

※参考 日和佐浦地区建物悉皆調査

実施期間:平成26年9月28日(日)～30日(火)

調査戸数:1,068件(図-1参照)

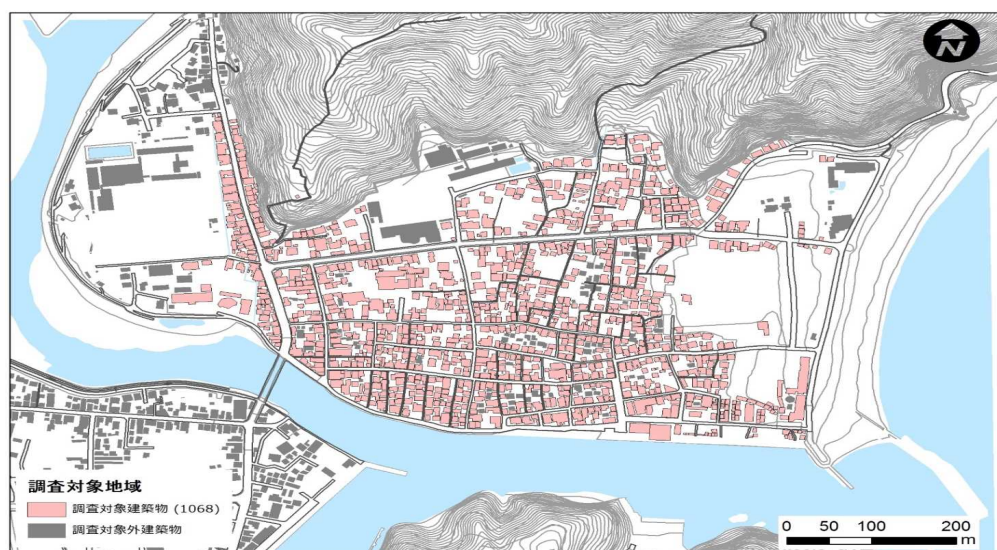


図-1

## 2.調査内容

### 2-1. 調査対象

海陽町鞆浦地区(倉庫等を含む)を対象とした(図-2参照)

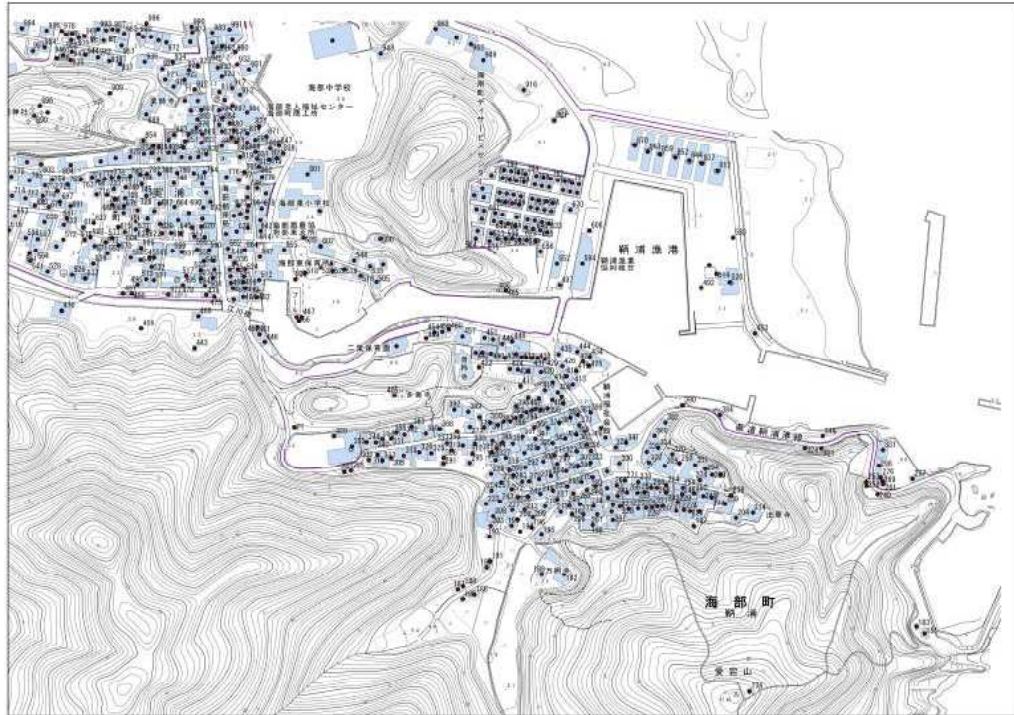


図-2

## 2-2. 調査項目

調査表は「地域の特徴的な建築物であるか」、「構造」、「用途」、「空き家であるかどうか」など、過去の調査も踏まえながら21項目を設定した。1枚におよそ3分から5分程度かかる(別紙-1参照)。

地区名	地図番号	建物ID	調査日	調査員・班	写真記録時間	写真ファイル名
海陽町柄浦			年 月 日			

1	地図の確認	<input type="checkbox"/> 地図通りである <input type="checkbox"/> 訂正あり ( )
2	基本選択	<input type="checkbox"/> 地域の特徴的な建築物 (○厨子造 ○塗籠造 ○看板建築 ○その他) <input type="checkbox"/> 新しい建築物 <input type="checkbox"/> 不明
3	構造	構造: <input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 木造以外 <input type="checkbox"/> 不明
4		階数: <input type="checkbox"/> 平屋建 <input type="checkbox"/> 厨子2階 <input type="checkbox"/> 2階建 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 不明
5		下屋: <input type="checkbox"/> 下屋 ( ) 方 ○前面○左面○右面○後面○その他 ( )
6	用途	<input type="checkbox"/> 住宅 <input type="checkbox"/> 店舗 <input type="checkbox"/> 事務所 <input type="checkbox"/> 車庫 <input type="checkbox"/> 蔵・倉庫 <input type="checkbox"/> 共同住宅 <input type="checkbox"/> ( ) 併用住宅) <input type="checkbox"/> その他 ( )
7	空家確認	<input type="checkbox"/> 空き家でない <input type="checkbox"/> 空き家と思われる <input type="checkbox"/> 不明 空家の判断材料: <input type="checkbox"/> 表札がない <input type="checkbox"/> ガスメーターが止まっている/メーターがない <input type="checkbox"/> ガスの柱が外れている <input type="checkbox"/> 近隣住民に聞いた <input type="checkbox"/> 水道栓がない/水が出ない <input type="checkbox"/> 雨戸を締め切っている <input type="checkbox"/> カーテンがない <input type="checkbox"/> 外観が廃屋風 (人が住んでいる気配がない)
8	庭	<input type="checkbox"/> 庭 ○前面○左面○右面○後面○その他 ( )
9	前面道路	<input type="checkbox"/> 道路 <input type="checkbox"/> 水路 <input type="checkbox"/> 道路側溝 <input type="checkbox"/> 未接道 <input type="checkbox"/> その他 ( )
10	接道玄関面	<input type="checkbox"/> 平入り <input type="checkbox"/> 妻入り <input type="checkbox"/> その他
11	屋根	材料: <input type="checkbox"/> 本瓦葺き <input type="checkbox"/> 葺瓦葺き <input type="checkbox"/> 金属類 (○茅葺下地) <input type="checkbox"/> その他 ( )
12		形状: <input type="checkbox"/> 切妻 <input type="checkbox"/> 寄棟 <input type="checkbox"/> 入母屋 <input type="checkbox"/> 陸屋根 <input type="checkbox"/> 片流れ <input type="checkbox"/> 片入母屋 <input type="checkbox"/> 鋸葺き <input type="checkbox"/> その他( )
13	下屋	材料: <input type="checkbox"/> 本瓦葺き <input type="checkbox"/> 葺瓦葺き <input type="checkbox"/> 金属類 (○茅葺下地) <input type="checkbox"/> その他 ( )
14		梁桁: <input type="checkbox"/> 繋ぎ梁 <input type="checkbox"/> 差肘木 <input type="checkbox"/> 通肘木 <input type="checkbox"/> 下屋桁 (○丸太 ○丸太から角材 ○角材 ○不明)
15	軒	<input type="checkbox"/> 垂木表し <input type="checkbox"/> 出桁 (せがいづくり) <input type="checkbox"/> 小庇 <input type="checkbox"/> その他特徴( )
16	壁・腰	<input type="checkbox"/> 大壁 <input type="checkbox"/> 真壁 <input type="checkbox"/> 漆喰 <input type="checkbox"/> 下見板 <input type="checkbox"/> 金属トナリ類 <input type="checkbox"/> 防火サイディングボード類 <input type="checkbox"/> コテ絵 <input type="checkbox"/> 珪藻土塗 <input type="checkbox"/> 珪藻土塗 <input type="checkbox"/> その他 ( )
17	建具	<input type="checkbox"/> 木製建具+ガラス <input type="checkbox"/> アルミサッシ+ガラス <input type="checkbox"/> 引違い障子 <input type="checkbox"/> 板戸 <input type="checkbox"/> 虫籠窓 <input type="checkbox"/> 出格子 <input type="checkbox"/> 部張:ミセづくり (□上ミセ □下ミセ □上下ミセ) <input type="checkbox"/> 雨戸戸袋 (○木製 ○アルミ ○その他 ) <input type="checkbox"/> 肘木 <input type="checkbox"/> 方杖 <input type="checkbox"/> 持送り (彫刻: ) <input type="checkbox"/> 窓格子 (○木製縦格子 ○その他(( )) <input type="checkbox"/> 手すり(○木製 ○その他( ))
18	景観要素	<input type="checkbox"/> 生垣 <input type="checkbox"/> コンクリート塀 <input type="checkbox"/> 樹木 <input type="checkbox"/> 石垣 <input type="checkbox"/> 土塀 <input type="checkbox"/> 石碑 <input type="checkbox"/> 地蔵尊 <input type="checkbox"/> その他 ( )
19	建物状態	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 ( ) <input type="checkbox"/> 今すぐ修理が必要 ( )
20	印象 (評価)	<input type="checkbox"/> 文化財として重要な建物 <input type="checkbox"/> 町並み景観に寄与している建物 <input type="checkbox"/> 比較的新しいが雰囲気を残している <input type="checkbox"/> 詳細調査が必要と思われる建物
		改造の程度:○多い○少ない○ほとんどない <input type="checkbox"/> その他 (不明)
21	その他メモ欄	

## 2-3. 調査方法

調査チームは鞆浦地区を6地区に分割し、その地区ごとに調査チームを決める。各チームは、2名ずつで写真係と調査票記入係に分かれる。GPS機能付きのデジタルカメラを各グループに1台ずつ用意し、写真の撮影時間と位置情報から、調査後も撮影した建物を判別できるようにした。

使用する地図については鞆浦地区の建物を把握し、調査を行う際にも持ち歩くための住宅地図と砂防基盤図の2種類の地図を用意した。ひとつは、住宅地図で表札のデータが付加されており、もうひとつは、行政が所有している砂防基盤図である。いずれも、建物形状がわかるデータであるが、行政が取り扱う基盤地図情報や都市計画図との経年的な比較検証を想定して、砂防基盤図を本調査の基礎データとした。この基礎データに、現地調査の結果を反映させて地図化や空間分析を行う。



オリエンテーションの様子

## 2-4. 調査期間

平成27年12月4日(金)から6日(日)の3日間で現地調査を行い、その後、データ入力や調査結果の分析を3月末までの期間で行っている。

**お知らせ**



**鞆浦地区まちなみ調査へのご協力をお願い**

徳島大学の調査をつけた学生が、下記の日程で鞆浦地区の建物の状態について、記録・写真撮影を行います。この調査は、徳島県南部総合市民局・海陽町・徳島大学が連携した事業で、地域活性化のための調査資料とするを目的としていますので、地域住民の皆様におかれましては、ご理解とご協力のほどをよろしくお願いいたします。

日時：2015年12月4日(金)～12月6日(日)  
 (予備日2015年12月11日(金)～12月13日(日))

場所：海陽町鞆浦地区

目的：建物保全のためのデータベース作成

調査者：徳島大学総合科学部 建物調査チーム

お問い合わせ先：お電話 088-656-7636  
 徳島大学 総合科学部 空間情報学研究室 榎本肇史

**鞆浦地区まちなみ調査について**

海陽町 まち・みらい課  
 徳島県南部総合市民局経営企画課＜東海＞  
 徳島大学総合科学部 空間情報学研究室 榎本肇史

海陽町まち・みらい課と、徳島県南部総合市民局経営企画課＜東海＞では、「地域の未来図作成支援事業」の一環として、海陽町鞆浦地区のまちなみ調査を実施することになりました。この調査は、空き家か否かをはじめとした地域の建物に関する様々な情報の把握を意図したものです。また、徳島大学と連携して調査を進めることで、学生たちに実際の「地域づくり」の可能性を現場で学んでもらい、若者の発想や視点を活かした地域活性化の提言をとりまとめることで、将来の政策の一助とすることを目的としています。

本調査に参加するのは、徳島大学から、教員1名、学生十数名ほどです。期間中は、複数のグループに分かれて鞆浦地区にあるすべての建物の外観について、記録・写真撮影を行います。なお、この調査は、建物の外観を対象としたものであり、町民の方々へインタビューやお話しするなどの直接的なご協力はお断りいたします。

今回の調査結果を踏まえて、将来的には町民の方々へインタビューやアンケートをご依頼することもあるかと思いますが、その際は「地域づくり」を担う次世代の人材を育てるという視点から、ぜひお力添え下さいませようお願いします。

調査期間：2015年12月4日(金)～12月6日(日)  
 (予備日2015年12月11日(金)～12月13日(日))

お問い合わせ先：お電話 088-656-7616  
 徳島大学 総合科学部 空間情報学研究室 榎本肇史

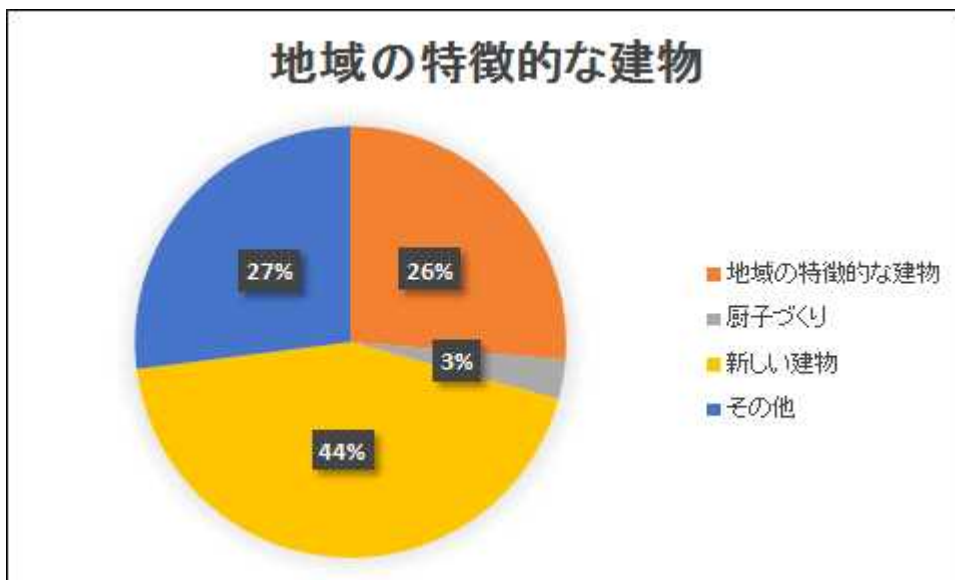
住民向け周知チラシ

### 3.調査結果

レコードは476件に上った。この数はすべてが建物ではなく、建物から空き地や駐車場へと変化したもの、さらに一部が駐車場で一部が建物というケースも数に計上されている。一方、街区の奥まった場所や私有地(道)を通らなければ辿り着けない建物もあるが、それらについては調査対象からは外れている。こうした事情から、調査対象総数が必ずしも軺浦地区の建物すべての数ではないことに留意する必要がある。上記を踏まえた上で、下の調査項目について、グラフと地図で視覚化を行い現状を把握する。なお、紙幅の都合から、いくつか掲載されていない項目もある。

データベース  
(抜粋)

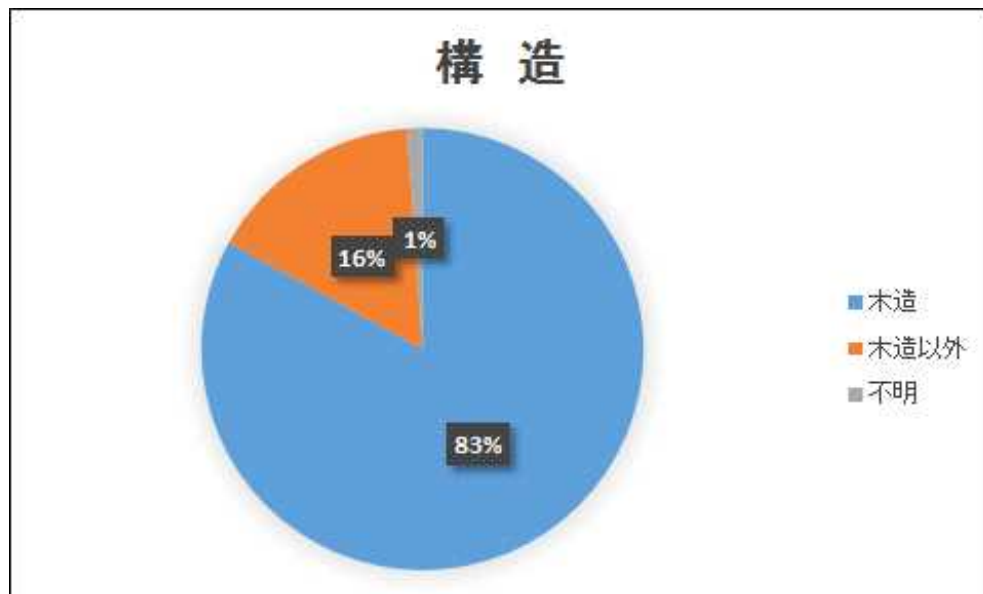
#### 3-1. 地域の特徴的な建物



地域の特徴的な建物	151
厨子づくり	17
新しい建物	251
その他	155

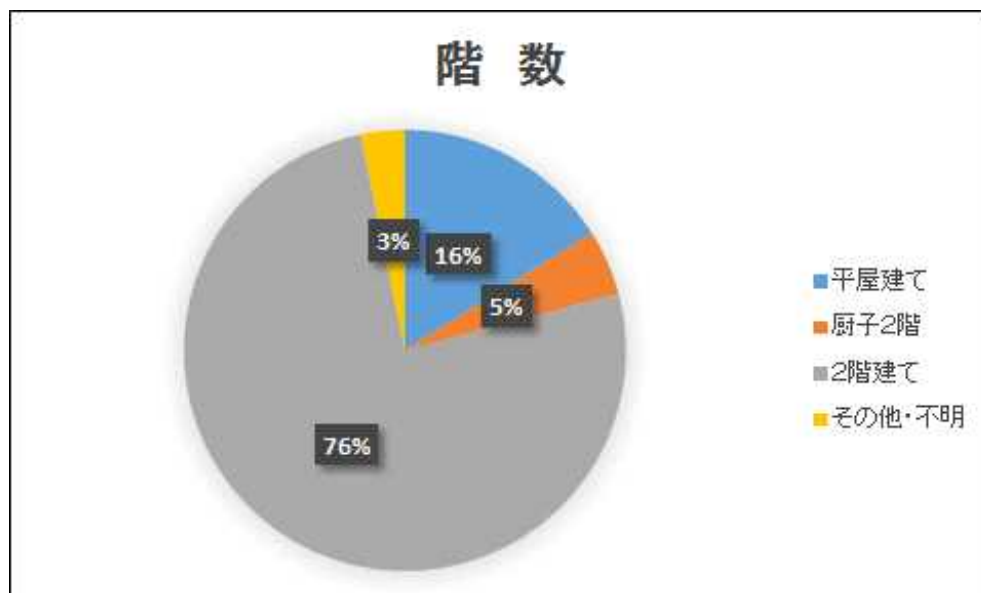


### 3-2. 構造



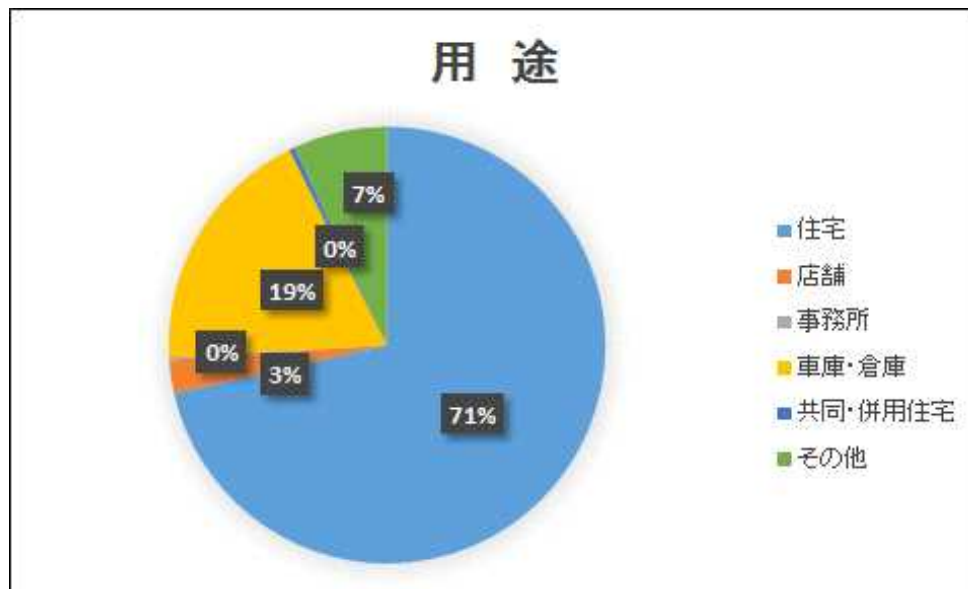
木造	367
木造以外	70
不明	5

### 3-3. 階数



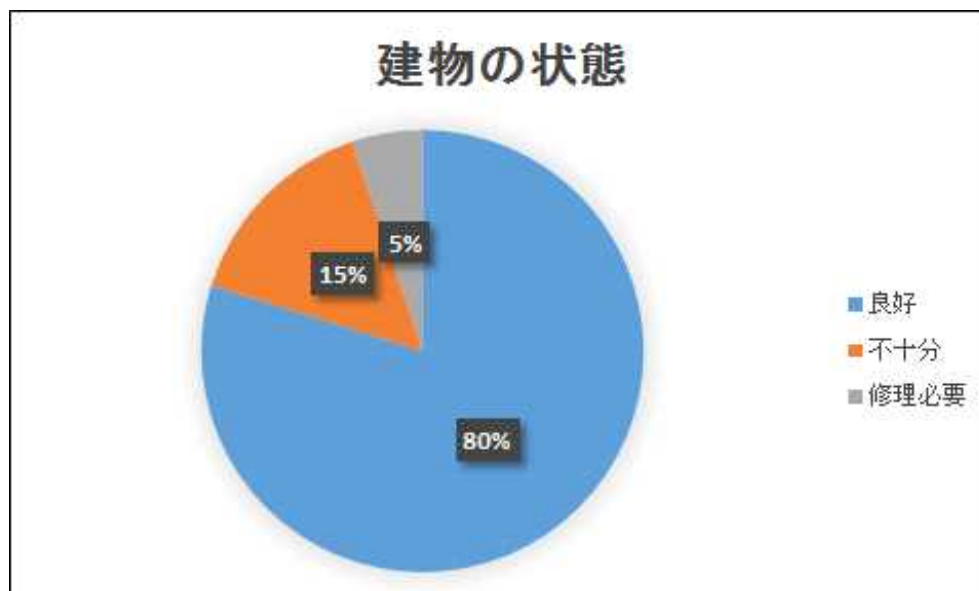
平屋建て	70
厨子2階	21
2階建て	331
その他・不明	14

### 3-4. 用途



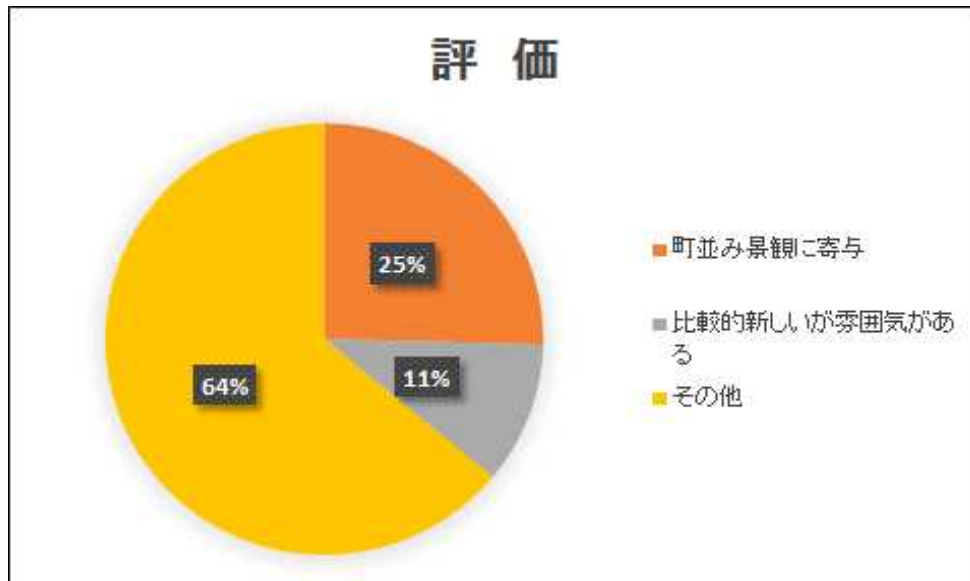
住宅	348
店舗	12
事務所	1
車庫・倉庫	90
共同・併用住宅	2
その他	34

### 3-5. 建物の状態



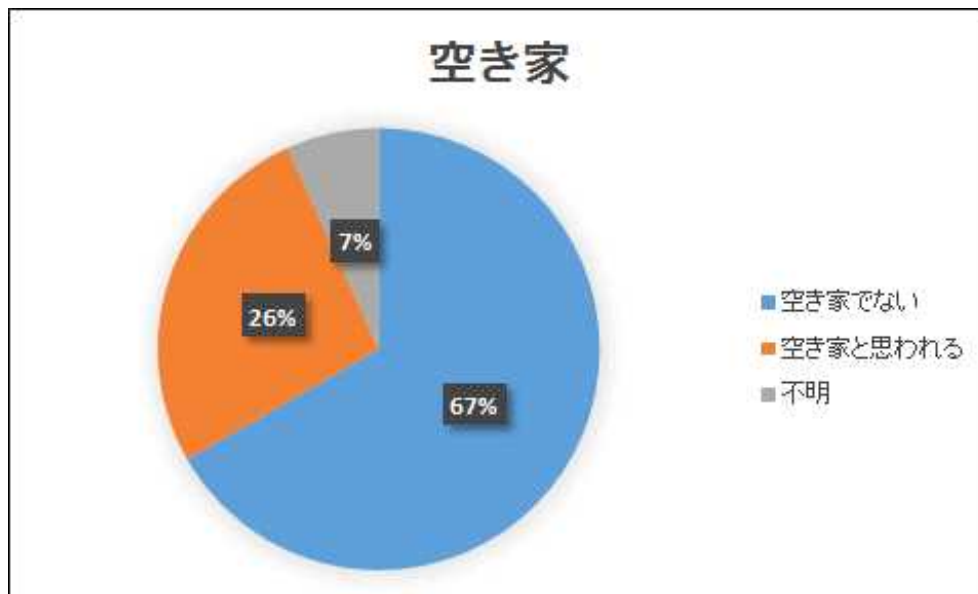
良好	324
不十分	61
修理必要	21

### 3-6. 評価



町並み景観に寄与	155
比較的新しいが雰囲気がある	65
その他	390

### 3-7. 空き家



空き家でない	266
空き家と思われる	106
不明	27

## 4. 学生及び地域住民の意見、感想

今回の建物調査は、前述の徳島大学総合科学部の学生12名が所定の調査表に基づき現地調査を実施した。この調査にあたり、学生が建物調査を行うだけで無く、鞆浦地区の雰囲気を感じることや地域住民の方々と触れあうことにより、地域の歴史や現状、課題といったものを調査することができた。

以下に学生の感想や意見、及び地域住民の方々からヒアリングした事項などを述べる。

### 4-1. 学生の感想や意見

- 現状で移住者を集めるには少し難しいと思った。住むことができる物と修理すれば住める物、住むことが出来ないような物があり、後者2つの改修・撤去は迅速に行う必要があると思う。廃屋があれば景観が損なわれ、部外者がここに住みたいという意欲があまり湧かなくなると思うから。
- 近代的な建物もいくつか見受けられたが、少し周りの景観とは突出したイメージがあったので、下屋作りを筆頭にいくつか周りと調和した雰囲気を作るための建築様式の導入の推進やそれらを製作する際の補助があれば良いと思う。
- 外部の人間の移住やIターンを促進し町を活性化するには、その町の魅力を最大限に活かす必要があり、海陽町の魅力というのは港町独特の町並み・景観であると思う。
- 空き家があれば、普通に移住するよりは移住の際に必要な経費は減るため、現在はマイナスのイメージの空き家もプラスの財産として海陽町移住者の周知に使い、外に海陽町を町並み・景観と共に移住のための情報を発信することで移住者を呼び込めるのでは。
- 鞆浦にはいかにも漁師町らしい雰囲気が残っていることが印象的だった。また、ミセづくりなど、趣のある特徴が残った建物もあり、その景観はどこか懐かしい気持ちにさせる。
- 空き家が多いという話を耳にすることがあった。確かに調査をしていても、意匠を残した建物がある一方で、廃屋のように見える建物が目につくことがあった。現在、行政でもこのような地域の実情を細かく把握することは難しいとされている。そこで、私たち学生の調査によって空き家や建物状況の実態を把握することで、最近話題となっている空き家活用への第一歩となりうると考えている。また、空き家が増加することで発生する、景観や防犯上の問題解決にも繋がると考えている。
- データベース化と言っても、その実現には膨大な時間と労力が必要となると実



鞆浦の町並み



ミセづくり

感じた。同時に、地域の実態を把握することの難しさと、把握しなければならないというコンフリクトに気付いた。

○「このこと、ここは空き家」「この家は、お盆とお正月だけ帰ってくる」などと詳しく教えて下さる方や、「ごろうさまです」などと声をかけて下さる方が何人もいた。さらに、靱浦地区全体が写った航空写真を私たちに見せるために自宅まで連れて行ってくださった方や、コーヒーをごちそうしてくださった方までいらっしやっ

た。  
○「ミセづくり」などを持つ、昔の雰囲気を残した家屋が数多く残存していて大変興味深い調査となった。なかでも私は、初めて目にする「ミセづくり」に惹かれた。しかし、調査中に目にしたのは壊れているもの、あるいは壊れていないがもう長い間使用された形跡がないようなミセづくりばかりだったことが残念だった。同時に、住民の方々は口をそろえて「靱浦地区に人が少なくなってしまうとさみしい」とおっしゃっていた。



靱浦漁港

○ミセづくりを修理、整備して、靱浦で獲れた魚介類や、野菜等を並べて「靱浦マルシェ」を開催するなど活用方法を見出せば、靱浦地区の賑わいづくりに寄与できるのではないか。

○調査した家屋のデータを詳細に分析することにより、靱浦地区の賑わいづくりや景観保全に役立てていただきたい。

○今回の調査で苦労した点は、特徴的な建物のつくりを、実際の建物にあるものがその項目に該当するか否かを判断できるようになるまでに時間がかかった事。出桁といった特徴的なものを言葉の上では理解していたものの、実際の建物で見つけてみるのでは違った。

○調査票に記入する以外の事を、地元の住民の方からいろいろと親切に説明していただいたりしたので、そういったことも大事にしていきたいと思った。

○調査の中で住民の方の地震や津波に対する意識があるのだと感じた。どのような事を調査しているかなどと尋ねられた時に、南海地震や津波には関係があるのかなど、よく一緒に聞かれたのが印象に残っている。

○靱浦地区の建物の特性を明らかにすると同時に、建物の空き家率がとても多いこと、そして靱浦地区に住む地元住民の繋がりの強さが分かった。



大岩「慶長・宝永地震津波破」

○地元住民の話だと、破風部分を設置している家が多いということは、建築されたときに比較的裕福な人が集まっていたのではないのかということをお教わった。

○空き家かどうかを判断する際ははっきりと断定できるわけではなく、判断に迷うところがあったが、地元住民の協力もあって空き家かどうか調べることができた。地元住民の方々は、一人や二人のみなら

ず、時には複数人集まって地元の話をしてくれた。

- 空き家になる建物がどんどん増えてきていることがわかり、その中でも地元の人たちで皆集まって仲良く暮らしている地域の地縁関係の強さが印象的だった。
- 建物の特性調査にとどまらず、地域の人たちの実情を知ることが出来た。
- 家主が不在で管理する人もいないとどんどん荒れていく一方で、そういった家を発見し、保存していくためにも今回の調査は意義あるものになったと思う。地域住民の方も話しかけてくださったり、逆にこちらから空き家の状況や、家の場所を尋ねると快く教えてくださったりと、地域の方々にも大変助けられたことも、有意義だった。
- 貴重な歴史的町並みを保存していくためには行政と住民との連携が重要だと感じた。
- 町外に人が流出していることが分かるが、逆に空き家を利用して町外から人々を流入させることも可能であるはず。
- 一軒一軒が古い特徴を残した建物であり、町並みという点で残していくべき通りばかりであったように思う。それは、ただ古い建物が多いからではなくて、建物調査票に記入する項目が多い建物が、並んで残されていたからである。
- 土日の調査にも関わらずがらんとしているようだったのが少し寂しく感じられた。
- 住民からは、特徴のある建物を早く取り壊してほしい、と言う声も聞かれた。海が近く、地震から津波災害が発生した際、地震によって古い建物が壊れ、山へ避難する際、避難経路をふさぐ恐れがある。と言うことだった。私は調査地域に住んでいないため「町並み保存」のための調査、という感じだったが、古い建物は早く壊してしまえ、と言うような、住民の方の立場になってみると生活する上で不便が生じてしまうのはジレンマのように思えた。
- 鞆浦地区の歴史を、実体験を交えて話してくださった方もいた。温かい人柄の方が多く印象を受けた。また土地特有の歴史を知っている方が多く、地元への愛着があることも窺えた。面白い話を聞くことができ、調査を面白く進めることができたと思う。
- 空き家が多い事は残念なことだと思っていたが、歴史の中には面白い話があり、観光資源になるんじゃないか、と思うものもあったので、歴史に関するものを観光資源として人を増やすことができるのではないかと思う。
- 調査をすることで、教科書や本を読むだけでは分からないこと、町並みの感動は実際に見ないと無かっただろうし、歴史のことは住民の方から聞くことがなかったら知らなかっただろうと思う。これは調査に行くことの楽しみだと感じた。
- 町並みを保存もしくは保っていくには早急な対応が必要だと思った。また、取り壊され空き地となっている場所が少なく、風化した空き家が多くみられた。あまり空き家の解体などは行われておらず、状態の悪いものが放置されたままの空き家もいくつか見られた。
- 「高齢者が多く人口も減少しているため、そのうちこの町も終わってしまうわ」という方がいた。このような人口減少による町の衰退の問題は鞆浦だけでなく、日和



調査風景

佐や神山などでも生じている。若者などの移住者を呼び込み、人口を増やすような政策などをしていかなないと、地元住民だけでは、町の伝統や行事などが衰退し、無くなってしまう。今回の調査でみられた、漁村独特の家の造りや歴史的にも価値のある家なども使われなければ、風化していき状態が悪くなってしまふのは非常に残念である。

- 地理的・地形的な条件から南海大地震のときは被害があまりなかったようである。この経験が住民のなかで自信となっており、予想されている南海トラフ地震に対する意識は低い。
- 比較的新しい建物であっても、その周りに建てられた比較的古い建物によって醸し出される、歴史を感じることでできる雰囲気崩さないような、地域になじむ建物であるなど、景観においては、地域の建物が全体で調和をとるような、とてもよい場所であった。
- 建物を移住者などに活用していただく場面で、今回の調査が役立てられるのであろうと、今後につながるものであることを認識・確認しながら、主体的に調査をおこなうことができたのはよかったことだと思う。
- 鞆浦地区にも歴史的な意匠の残る建物が多く見られることがわかった。そしてそれら趣のある建物が連続的に並んでいるのも印象的だった。
- 鞆浦地区には初めて訪れたはずなのになぜか懐かしい感じのする漁村風景が広がっていたのも印象的だった。
- 小学生たちが学校の帰りにお菓子を買いに走ってくる当時の様子が思い出されるようで、この歴史のある町並みを残していきたいという思いがより一層強くなった。
- (過去に調査した)日和佐地区と鞆浦地区を比較する視点ももてたこと、そして前回の調査の後に空間分析の手法について授業で学んだために今回は調査の後におこなわれる分析まで見据えて調査ができたことから、自分の成長も感じられた。
- これからも徳島大学の学生にはさまざまな調査に参加し、自分の糧としてもらいたい。
- 崩壊してしまった大きな家屋や加工所が目立ち、せつかくの海を臨む景観に不気味な感じが漂ってしまっている。行きたいと思わせることだけでなく、行きたくないと思わせないことにも重点を置いたほうがよいのかもしれない。
- アトリエを持ちたいと思った。バルセロナやアントワープなど、港町はよく芸術家が活動拠点にする場所でもあり、生活の利便性が低いことにはそういった利用価値と需要の可能性もあるのかもしれない。

## 4-2. 調査結果に対する考察

4-1 にあるとおり、調査を実施した学生や地域の方々からの主な意見、感想として、

- 学生からは
  - ・この地域の魅力である港町独特の町並み、景観を最大限活かし地域活性化を図るべき
  - ・空き家をプラスの財産として町並み、景観とあわせ町内外に発信
  - ・ミセづくりなど特徴的な建物が多く、懐かしい気分させる
  - ・この調査は空き家問題解決のための第一歩となる。防犯対策にも有効
  - ・現状ではここに住む意欲が湧かないので移住者を集めるのは難しい
  - ・一言で建物のデータベース化といっても多大な労力と時間がかかる

- ・地域の方々が協力的で優しかった
  - ・靱浦地区でとれた魚介類や野菜を使った「靱浦マルシェ」の開催
  - ・地域の方々は地震、津波に対する意識が高い
  - ・地元住民の繋がりの強さがよくわかった
  - ・空き家かどうかの判断が難しく、地元住民の協力が必要
  - ・建物の特性調査にとどまらず、地域の人たちの実状も知ることができた
  - ・歴史的な町並みを保存するには地域と行政の連携が必要
  - ・空き家が多いということは、逆に空き家を利用して移住者を増やせる可能性もある
  - ・特徴的な家を残すか防災対策のため取り壊すのか住民のジレンマを感じた
  - ・地区特有の歴史に詳しい住民が多く愛着を感じる。また観光にも寄与できる
  - ・教科書や本ではわからない感動があった
  - ・若い移住者を増やす政策が無いと、伝統や地域そのものが無くなってしまふ
  - ・昭和南海地震の被害が少なく、南海トラフ巨大地震に対する意識が低い
  - ・過去に行った調査との比較する視点が持てた
  - ・この地域に行きたくないと思わせないことも重要
  - ・生活の利便性は人の価値観によっても変わるので需要の可能性はある
- 地域住民からは
- ・靱浦地区の人が少なくなって寂しい
  - ・防災対策のため、古い家は取り壊して欲しい
  - ・高齢者が多く人口も減っており、地域の存続を危惧している
- などであった。

学生や住民の方々それぞれの価値観の違いやものの捉え方によって違いがあるものの、概ね地域に対する印象が良く、この地域を残したい、住みよいまちにしたいといった意見が多かった。特に、昨今における空き家問題への関心が高いことや地域の存続を含めた地域コミュニティのあり方、さらに南海トラフ巨大地震への備えなど当地区が抱える課題も多いが、空き家の利活用や港町特有の地域活性化策などについて、ある程度具体的な提言もあった。

また、建物調査の実施にあたり、現地調査はもとより、データベース化にも多大な労力と時間がかかる課題もあることや、地域の協力の必要性さらに他地域との比較の観点があればよいことなども興味深い結果となった。

## 5.まとめ

この調査を実施することで、靱浦地区にある建物のデータベース化と学生の所見を得ることができ、それにより靱浦地区における現状、課題などがある程度浮き彫りになった。

このことにより、住民生活の土台である安全で安心な生活を送るための防災・減災対策や、急激な人口減少社会を迎えている中、全体の4分の1を超える空き家が存在するなど地域コミュニティのあり方について等、課題は多いとの認識を新たにさせられた。

その一方で、靱浦地区にある靱浦漁協は県内最大の大敷網を有し、例年11月から7月の操業で多種多様な魚介類を水揚げしており、未利用、低利用の魚介類なども抗酸化冷凍庫を活用した6次産業化など地域特有の漁業が盛んである。最近では遊休施設を活用したサテライトオフィスの体験施設が開設されるなど、これ



まででない新しい機運も生まれている。



抗酸化冷凍庫と加工品



サテライトオフィス体験施設 城山荘

また、地域特有の特徴的な建物、町並み景観に寄与している建物がそれぞれ4分の1を超えるなど、漁港特有の伝統的な町並みが多く残っていることがわかった。

さらに、地域の住民同士の結びつきも強く、コミュニティがしっかりと形成されているうえ、空き家も多いが良好な状態保っている建物も8割を超えているなど今後の可能性を秘めていることも確かである。

特に空き家問題の対応については、防災の観点に立った対策や利活用方法について学生の意見がきっかけづくりになる部分もあると思われる。

海陽町は平成27年10月に、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、「海陽町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「海陽町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。この総合戦略は

- 若年層を中心とした人口流出の歯止めと流入の促進
- 若い世代のしごと・結婚・出産・子育ての希望の実現
- 地域資源を発掘・活用した産業の創出と既存産業の継承・再生による雇用創出
- 地域の課題を住民との協働により解決し、魅力ある地域社会を創る

という4つの基本的視点からなっており、地元産業の担い手の確保、育成や地元産品のブランド化及びサテライトオフィスの誘致などによる産業振興、さらに移住、定住希望者の相談や支援体制の整備等により新しい人の流れを創る取組を展開している。これらに加え空き家や空き店舗などの未利用施設の利活用の取組を組み合わせることで地域コミュニティの維持、再生や新たな地域づくりが可能であることから、今回の建物悉皆調査と学生からの提言はこれらの課題解決に少なからず寄与できるものと思われる。

また、南部圏域には靱浦地区同様、人口減少や空き家の問題を抱える地域が少なくない。そこで、若者の機動力と感性を活かすため、高等教育機関との今回のような連携も有効であると考え。こうした行政のニーズと高等教育機関の社会貢献、地域連携の目的が合致し、今後、他地域でさらに拡充できればと思っている。

学生の意見には具体的なものもあったことから、今後、行政と地域住民が連携し施策に若い感性を反映させる努力も必要であると思われる。これらを踏まえ持続可能な地域づくりや地方創生に繋げていきたい。

以上

